



～ 秋のダイナミックワールド ～  
黄の2組(年中児)で展開されている遊び

ダンゴムシごっこ

1学期、生き物の飼育観察をしていた子どもたちが、生き物の特徴や好む環境について、自らなりきって遊び探究していったなかで生まれた遊び。「ダンゴムシはどうして丸くなるの?」「どうして日陰が好きなの?」など、子どもたちは疑問に思ったことを、ダンゴムシになりきって遊ぶ“ダンゴムシごっこ”を通して探究していきました。2学期になっても“ダンゴムシごっこ”は続き、「ダンゴムシのおうちが寒くなってきたから温かくしたい!」と、今度は身近な素材を使ってダンゴムシのおうちを温かくする方法を考え始めました。子どもたちが選んだ素材は紙。ダンゴムシのおうちづくりに最適な紙を求めて、いろいろな紙を集め、それぞれの特性を調べた子どもたちが、最終的に選んだのは新聞紙と段ボールでした。新聞紙と段ボールのもつ保温性をいかし、ダンゴムシの温かいおうちづくりに取り組みました。



クモの巣づくり

ダンゴムシごっこをした際、ダンゴムシの天敵のクモ役を保育者が演じたことがきっかけで生まれた遊び。ダンゴムシになりきって遊んでいる子どもたちのところに、「おいそうなダンゴムシを見つけたぞ! 食べちゃうぞ!」とクモ役の保育者が近づいていくと、子どもたちは体をぎゅっと丸め、小さな声で「食べないでください」と言ったり、じっと息を止めたりして必死な様子で身を守っていました。それからダンゴムシごっこに、クモ役の子どもが登場するようになり、クモの巣づくりも始まりました。クモの巣づくりには、糸やロープ、ゴムなどいろいろな素材を使っていましたが、「小さいお友達が遊びに来た時にも安全に遊んでもらいたい」「自分たちががらまった時に楽しい!」という理由で、すべてをゴムで作り直すことにしました。保育室北側全面に大きなクモの巣をはり、毎日からまって遊んでいます。



いろいろな生き物になって (チョウチョ・カエル・テトウムシ)

アオムシやテトウムシ、カエルの飼育がきっかけで始まった遊び。ダンゴムシごっこ同様に、アオムシごっこを始めた子どもたち。「手足のないアオムシってなかなか前に進めなくてたいへん」と楽しそうに床をはって遊んでいました。やがて「先生、そろそろチョウチョになりたいから羽根をつくって!」「手で(羽根を)動かせるようにしたいの」というリクエストが女の子からあり、衣装づくりが始まりました。「蜜を飲むお花畑もつくろう!」「アオムシが食べるキャベツもあったほうがいいよね」とイメージを膨らませながら次々とつくっていきました。最近では、大型積み木を積んで「蝶の学校」や、なぜか「ワニの住む温泉」などをつくって遊ぶ姿が見られたり、テトウムシになりたいという子たちも現れたりして、遊びが広がっています。



生き物たちの森をつくろう! (落ち葉の橋・サナギになる木)

いろいろな生き物になりきって遊んでいた子どもたちから、保育室全体を「生き物たちが住む森にしたい!」との意見が出され、生き物たちの住む森づくりが始まりました。生き物たちが好む環境についての探究をしてきた子どもたちは、「元気な木が森をつくるんだよ」「枯れて倒れてしまった木だって、生き物が暮らしたり、いい土をつくったりするよね」と、探究で得た知識を生かしながら意見を出し合っていました。大きな段ボール製のポールを立てたり横にしたりして、森に立つ木のイメージを膨らませていました。「木登りもできる木にしようよ!」と、木に見立てたポールを床に立てようとしたのですが、なかなかうまく立てられません。「先生、ここに穴を掘ったらいいよ」と提案する子どもたちに「それはできないな 違う方法は考えられない?」と返答すると、子どもたちはしばらく考え、「そうだ! 根っこがないからだ!」「根っこをつくろう!」と木の根っこづくりを始めました。何度も失敗を繰り返し、やっと今の形が出来上がりました。しっかりと立った木で木登りを楽しんでいた子どもたちが、次に始めた遊びは、木にしがみつきサナギになる“サナギごっこ”でした。きれいな蝶に変身できるように、きれいな木にしようと考えた子どもたちは、セロファン紙を使ったり、園庭のクスノキの葉っぱを拾ってつくったブーケを飾ったりしました。また、段ボールのポールを横にして2本並べ、そこに色画用紙でつくった落ち葉をたくさん貼りつけて“落ち葉の橋”もつくりました。



生き物たちのスーパーマーケット

ダンゴムシごっこをしていた数名の子どもたちが、お買い物に出かけるようになったことから生まれた遊び。ダンゴムシごっこをしていた子どもたちが、「ちょっとコンビニに行ってくる!」とお買い物に出かける姿を保育者が発見しました。「ダンゴムシもコンビニに行くのね」と子どもたちに話しかけると、「ほんとのコンビニに行ったら人間に踏まれちゃうでしょ」「ダンゴムシのコンビニなの」という返事。どんな品物が売っているのか、さらに尋ねると、「落ち葉とか、卵の殻とか、新聞とか、きれいな水とか」と、ブロックや工作に使う素材などを、商品に見立ててやりとりをしていました。その様子を、保育者がクラスのみんに紹介すると、「生き物たちが買える商品について」話し合い、商品づくりを始めました。また、スーパーマーケットのとなりでは、ドングリを使ったゲームコーナーも生まれ、「ドングリぴたり 10個ゲーム(一握りで10個のどんぐりを掴む)」と「ドングリ転がしゲーム」が楽しめるようになっていきます。ゲームの結果によりスーパーマーケットの商品をもらうこともできます。

